

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 さぬき有機の里
都道府県 香川県
対象地域 さぬき市、高松市、綾川町
対象品目 ニンニク



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

平成25年から栽培技術や販売先の共有化を図ることで安定した供給先を確保するとともに、有機農業の拡大に取組んでいる。有機農業に取組む新たな品目として、国産固定種の「平戸ニンニク」（早生・大粒）に着目した。土質や気候条件の異なる3つの地域において、当該固定種の特徴である早採り性を活かした湿害を低減する栽培技術を検討し、栽培体系をマニュアル化することにより有機農業の拡大と有機JASの取得拡大を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	0.2 ▶ 0.5		
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.2 ▶ 0.5		
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.2 ▶ 0.5		緑肥や堆肥、有機質の利用
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.2 ▶ 0.5		植付機、除草シートの利用

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料の施用	▶ 緑肥や堆肥、有機質の利用	化学肥料の使用量の低減
省力	人の手による定植、除草剤散布	▶ 植付機、除草シートの利用	化学農薬の使用量の低減 定植作業の省力化と散布経費の軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	緑肥や堆肥、有機質の利用による土づくり	0	▶ 1	
省力	定植作業時間短縮	24.5h/10a	▶ 7.7h/10a	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

導入マニュアルを基に、「さぬきオーガニック」及び「さぬき有機の里」の定例会、勉強会等で普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	さぬき有機の里	東讃、中讃農業改良普及センター		
役割	マニュアルによる栽培の実践	技術指導		

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

その他